

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月18日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676300116
法人名	医療法人 愛誠会
事業所名	グループホーム あがいやんせ
所在地	鹿児島県曾於市大隅町岩川5566番地 (電話) 099-482-2535
自己評価作成日	令和4年2月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あがいやんせは、現在平均介護度が2.5で、ADLがほとんど自立されている利用者が多い。動かれる方が多いので、見守り重視に視点を置き、転倒に気をつけている。利用者の意見も積極的に聞き、又、答えて下さるので要望を取り入れやすい。元気で有意義な毎日が送れるよう、サービスを年間を通して計画実施している。本年度もコロナウイルス感染予防の為、自粛しながらの生活であったが、事業所内で季節の行事等を行い、季節感を感じられ、楽しい時間を過ごして頂く様に取り組みを行った。利用者の体調管理に気をつけながら、より良い環境の下で、職員8人(内介護福祉士6人)にて、認知症緩和にも努めている。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年3月3日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、曾於市岩川の市街地に位置し広大な敷地は地域に開放されており、ゲートボール場や子供達の通学路として利用され園児のマラソンコースになっている。桜の時期は、花見に訪れる地域の方々も多く数か所設置された東屋も活用されている。母体医療機関、介護老人保険施設、訪問看護ステーション、関連のグループホームとの法人連携が日常的にあって緊急時や重度化の際の医療連携や自然災害時の法人の応援体制、研修体系が構築され、職員の資格取得へのバックアップがあり、サービスの質の向上に向けて法人全体での職員教育がなされ、就業環境を整えている。職員の定着も良く離職は少ない。

年2回、協力医療機関の管理栄養士が職員の作成した献立に栄養価やバランスなどについて指導やアドバイスをしている。季節の行事食にも柔軟に取り組んでおり、利用者ごとの栄養評価を参考に食事形態を工夫、医師指導により、栄養補助食などを取り入れ必要な栄養摂取量が摂れるよう取り組んでいる。また、職員は栄養摂取だけでなく口腔衛生、清潔保持に努め義歯調整や口腔や嚥下機能についても評価し、言語聴覚士と連携している。また、訪問看護師や主治医などと連携し、全身状態を把握、体重の推移、疾病の悪化や症状の進行などについても医療連携が図られている。

法人と共有した理念があり、昨年見直しがされ家族にも安心していただけるケアを目指している。毎週月曜日に法人の朝礼で唱和され部署代表の職員も参加しているが、定期的な評価を実施し職員に浸透している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所入り口に理念を掲示している。又朝礼時必ず理念をとらえ、全職員が同じ目標に動いている事を確認するようにしている。	利用者とともに家族にも自分達の介護を届けたいとの思いから見直しが行なわれた。職員は、勤務に入る前に個々に唱和、意識づけし常に理念を意識したケアの実現を目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の参加は出来ていないが、隣接の小学校の挨拶運動に参加し、交流している。	職員は、近隣の小学校の挨拶活動に参加しているが、感染症拡大予防のため地域交流は減少している。管理者などは、地域の清掃活動に参加したり、自治会長や民生委員などから地域の情報を収集したり協力関係を築くなど地域との関係構築に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	コロナ感染症予防の為、曾於市認知症ホームの会も開催が延期になり、活動の参加ができていない状況であるが、曾於市ホームページでの認知症相談窓口となり、地域の認知症に困った方が気軽に連絡できる体制を取っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症予防の為、運営推進会議は職員で実施し、市の職員に議事録配布にて、事業所の経過報告と課題を報告している。又民生委員、地域在中の家族の意見も取り入れ、テーマを決めて勉強会も開いている。	現在、会議は書面会議となっているが、メンバーには事前に事業所の活動状況や取り組み課題などを報告し意見を拝聴しミーティングで話し合いサービス向上に努めている。これまで会議は、避難訓練を同時開催するなどしており会議への参加を家族全員に促していた。会議で出された意見などは、家族会を通じて家族と情報を共有するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、必ず、市職員（保健福祉課）への、意見を確認し、実情や取り組みを踏まえた報告をして、相談・指導を受けている。	職員は、曾於市グループホーム・小規模の会の参加メンバーとして小学校にて認知症サポーター養成を勧めるため寸劇をおこなうなど協力関係を築いている。また、職員はオレンジカフェにも積極的に参加したり、市職員へ事業所の取り組みについて報告し協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望や落ち着きの無い方が居る時は、声かけを行い対応しているが、スタッフが付き添って外に出て気分転換を図る。又スタッフが外に出る時は、必ず他のスタッフに知らせ、注意を促している。	身体拘束等適正化を図るための指針については、法人で共有されており、法人の委員会のメンバーとして定例会議は書面で実施、定期的な研修会へ参加しているが、事業所単独での研修を実施、特にスピーチロックを念頭においたロールプレイング研修を実施している。職員は、不適切な対応がないよう互いに注意し再発防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループ内で実施される身体拘束の研修に、全スタッフが参加して、その後の評価もしている。又、その委員会に属するスタッフが、現場に情報をファイルで全員に回覧捺印をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や書籍で学んでいるが、対象者がおられて、関わられた		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や改定時に契約書や重要事項同意書について、家族に郵送し、又電話対応等も含め、不明な点など丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時やアンケート、来訪時に家族から、日々の生活の中から意見要望を聞き、評価している。	昨年、理念を見直し家族にも利用者同様のケアが提供できるよう思いを寄せているため、常日頃から電話や利用者ごとの園便り、事業所全体の広報誌などで本人や事業所の取り組み状況を伝え情報を共有し意見をもらっている。家族会では、運営推進会議の内容を説明し意見交換していたが自粛している。また、家族からはコロナ禍での職員の対応に対し労いの言葉があり関係性も良好である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議やミーティングなどで、運営に関わる事項を掲げ、職員の意見を反映している。	管理者を中心にミーティングなどで忌憚なく意見を出して話し合い、より良いサービス提供やチームケアに取り組んでいる。所属部署の目標があり、それについて個人目標を掲げて評価を行い、職員一人ひとりが向上心を持って職務に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所属目標に対して職員1人1人に個人目標を年頭に作成してもらい、1年間に3回評価して給与水準や昇進の査定に使用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各委員会に職員は所属しており、そこでの活動は随時、現場に発信して承認を得ている。又法人内の研修は全職員が参加して、1ヶ月後の評価をしている。法人外研修は自己研鑽にて参加を促している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ感染症予防の為、地域のグループホームや小規模多機能の施設との連携は取れていないが、外部研修等に参加し職場でのサービス向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ケアプランをその方の望む生活に基づいて作成して、短期目標の具体策を決め、毎日が心地よく過ごせるよう努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居時、家族がしてあげたい事、要望等を書いてもらい、意識づけをしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前、本人と家族の情報を正確に把握して、望まれる生活にどのような支援をするかをサービス計画に取り入れて実施している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者と日常的に会話をして、意見を聞いたり、手伝いをお願いしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回は面会（窓越し）を依頼して、経過報告や要望に関しては、電話で小まめな対応に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に面会（窓越し面会）に来て頂くようお願いしている。以前入所していた（同法人内）所にお連れして、友人と会う事で心身の安定に繋いでいる。	面会は電話を活用し玄関で実施しているが、来訪者には、リビングでの利用者の様子などホームの雰囲気を確認してもらっている。外出は、控えているため訪問カットを利用したり、ドライブにて車窓から地域を感じてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カップリングを常に考えてリビングで過ごしていただき、関係障害が発生したら早期に対応している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域での出会い時は近況など聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人に思いを時々聞いて、できるだけ思いに添った生活が出来るようにしている。	利用者の表情や言葉、生活ぶりを観察しながら利用者の思いや気持ちを受け止め申し送りノートなどで共有し、言葉にできない方についても思いを汲み取り職員間で話し合い、家族に確認しながら本人の望む暮らしに向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活行為評価表を6ヶ月毎に記録して、出来なくなった事を評価している。毎月のカンファレンス記録からサービス利用の経過の把握が出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	前日からの送り、経過記録を、早目に確認して、現状を把握している。出勤時に申し送り帳を確認、サインをして、現状の把握をする		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを3ヶ月ごとに評価して、家族にも10日毎のウイリーと評価を渡して意見をいただいている。	介護計画書は、3ヶ月毎に見直し評価を行いカンファレンスを実施している。評価は、法人の各部署が共通の記録方式を採用し情報の共有を図り多職種連携を図っている。コロナ禍のため電話で現状の課題、目標やケアの方向性などについて説明を行い、面談にて同意を得ている。職員は、頻繁に家族へ情報を書面で提供しつつ電話などで日々の暮らしぶりなどを伝えている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヶ月ごとのケアプラン見直しや月1回のカンファレンス、月2回の評価でも見直している。重要で確実に全スタッフに連絡したい事は送り帳に新たに書いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の病院受診が発生した時、緊急以外は家族での付き添いをお願いしているが、都合が悪い時はスタッフが受診に付き添っている。現在はコロナウイルス感染拡大予防の為、職員が受診対応をしている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染拡大予防にて外出ができていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	皮膚科、整形外科、眼科、心療内科等に、家族付き添いで受診されていたが、コロナウイルス感染拡大予防にて職員が受診対応している。	母体の協力医療機関との連携があり、月1回訪問診療がある。他科受診については職員が通院介助をしているが、必要に応じては、家族に協力をもらっている。医療連携が図られており、毎週、訪問看護師が健康チェックなどをおこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	週に1回、訪問看護師により入居者の状況を把握してもらい、随時連絡して指導を得ている。体調不良での受診も病院と連携を担ってもらっている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	入退院時のフロー図を作成して、医療機関と共有連携している。又サマリーを作成し、情報共有を図っている。入院中は状況確認を電話にて行い、家族の相談に応じている。入院1週間後状態を評価して入居持続か退居かの方向性を医療関係者、家族と相談して決めている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	入居者が重度化して、医療的に常時気をつけなければならない状況になった時は、看護師が常駐して安心して過ごせる所へ移る事を、入居時重要事項同意書の説明時に同意を得ている。又毎年リビングウィルを家族に書いてもらっている。	重度化した場合の事業所の体制などは、契約時に重要事項説明書にて説明をおこなっている。また、「事前指示書」にて本人、家族の意向を確認し毎年書面で意向を把握している。看取りについては、法人の方針により今後取り組んでいく予定であり、指針についても整備に向け検討している。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	感染症や事故が発生した時は、マニュアルにそって動けるよう、定期的に研修や勉強会で実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練と自衛防災訓練の2回を実施しており、やごろう苑との協力体制を第一にしている。</p>	<p>避難訓練は、年2回単独で実施、消防署には訓練実施後、アドバイスももらっている。2月は自動通報装置の点検などをおこなった。コロナ禍で法人との避難訓練が実施できていないが、法人との連携や体制は構築されている。事業所で食料や飲料水など備蓄をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックを掲げ、声かけを評価して人格の尊重やプライバシーを重んじている。	法人の研修体系があり、定期的に参加しており、ミーティングで話題にし話し合っている。丁寧な言葉使いや敬語を用いて話すよう心がけている。利用者の行動を抑制するような言葉は使わないようケアを統一し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室は好きなように、物の配置をしていただき、手伝いや取り組みは自由参加にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループワークや取り組みは参加したい方に促している。夜間は基本的に、眠たい時に入床するようにして、良眠に繋がっている。朝が苦手な方に対して、他者より遅れて声かけしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自分で決められない方以外は自分の好きな格好をしていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が育てた食材を使っている事を伝え、食への楽しみに加えている。又時々食べたい物を聞き入れて、調理し、食事の楽しみを増やしている。	朝食や夕食は、職員が手作りしているが、昼食は施設厨房から配食されている。管理栄養士による栄養指導があり、行事食なども楽しむことができるよう取り組んでいる。口腔や摂食嚥下機能の評価をおこない、言語聴覚士の連携があり食の自立や楽しみに繋がるよう支援している。干し柿、金柑漬けなどの保存食、手作りおやつなどを楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	血糖値や体重の観察が必要な方は食事量の調整を、本人に説明して実施している。又、水分摂取の少ない方は、説明して何度も声かけしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自力で口腔ケアが出来ない方には、付いて細かく口腔ケアを支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間オムツ対応の方は汚染を少なくする工夫や布パンツに戻す取り組みをしている。、排泄の失敗が生じやすい方は夜間トイレ誘導をしている。	尿意を自覚できる利用者が多く、排泄チェック表で排泄のリズムを把握し日中はトイレで排泄したり、夜間はポータブルトイレを活用している。また、夜間のトイレ移動の際の安全性を確保するため人感センサーを活用して排泄の自立を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を説明して進め、食材に野菜を多く摂るよう気をつけている。運動不足の改善に外での散歩ができない時は、室内を複数回往復歩行を促している。毎日全身体操を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週に1回入浴日に栄養剤を飲むのを楽しみにされている方がいたり、希望される時は入浴される人もいます。入浴拒否の方は声をかけを工夫して、気分の良い時に入浴を促している。	本人の希望を聞き週2～3回程度入浴をして清潔を保ち気持ちがりフレッシュするよう取り組んでいる。また、入浴剤を活用し、気持ちよく入浴していただけるようチームケアにて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事、おやつ、グループワーク、取り組み等の際声かけを行う。それ以外は、自由に休息、会話、TV等楽しんで頂いている。又状況に応じて休息の声かけを行う時もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬を認識されない方には、直接口に入れて、飲むの確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のグループワークの充実に努めており、他に手伝い、月に2回書道の時間を設けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防にて外出は自粛している。	天候や体調を見ながらホームの敷地を散歩したり、隣りの保育園児の様子を見たり、日光浴をしている。毎年、外出を計画的に実施しているが現在は予定通りの外出ができていない。職員は、感染対策を徹底し、ドライブをして地域に外出し車窓から景色を眺め気分転換をしたり、季節ごとの花見見物などに出かけて季節の移り変わりを視覚や肌などの五感で楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の責任の元でのお金の管理はしてもらっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>年賀状を、書いたりして手紙のやり取りが出来ている。携帯電話を所持されている方がいて、自由に連絡されている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花を飾ったり、季節を感じられる物を随時皆で作り、リビングに飾って楽しめるよう支援している。</p>	<p>玄関扉は二重扉になっており来訪者の対応や家族などの面会には有効活用されている。また、職員は折々の花を飾り、季節感のある装飾をしている。現在は、テーブルや椅子の配置をなるべく対面にならないよう間隔を空けて感染対策をおこなっている。廊下の壁には、行事の写真や利用者の作品などが掲示されており、ソファでくつろげるよう配置がされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソーシャルディスタンスを意識したソファやイスの設置を行い、休息や会話ができるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご夫婦で、遠慮なく会話できるようテーブル、イスを配置している。テーブル、タンス、棚、写真、絵等で、家族や本人が落ち着ける環境作りを支援している。</p>	<p>ご夫婦で入居の利用者があるが、テレビを観るなど居室で一緒に過ごせるよう配慮している。施設職員と連携し、T字杖置き場を設置した部屋がある。ベッド、タンス、エアコンは備え付けであるが、使い慣れた物を持ち込み居心地よく過ごしてもらっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりやイスを多く設置して、すぐ捕まえられることで転倒予防をしている。又すべり止めの付いたソックスや上履きを履いてもらっている。又毎日全身の体操を実施して、体力維持に努め、安全につなげている。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない